



第2回目「ナラ枯れについて知る」 二人の先生から学びました。

日 時：10月23日(土) 13:30-15:30
場 所：西部コミセン1Fロビー
参加人数：60名

はじめに 地域フォーラム「独歩の森のナラ枯れを考える」シリーズ第1回では、境4丁目にある独歩の森でのナラ枯れの状況をみんなで見てみました。第2回は、どうやって枯れてしまうのか、どういう木・環境が枯れやすいのか、どうすれば防げるか、科学的・歴史的に学びました。そして緑を維持する未来の選択肢をいくつか教えていただきました。



久しぶりにコミセンに若男女が集まりました。地域の雑木林を残すため先生の講演を聞きます。ちよっと大学生気分。質疑応答もたくさんありました。

境になりました。1980年以前は被害がまばらだったのが急速に拡大し、これではいけないと2004年には法定害虫となりました。2007年には23府県で発生が確認され、2010年に被害のピークを迎えます。東京都では2019年に確認され、2020年には本州の全都府県で確認されました。北海道ではまだ拡散していませんが、ミズナラがたくさんあるので繁殖してしまうと大変なことになります。

■ 危険生物に注意（吉田先生）

ナラ枯れが発生すると樹液がたくさん出てスズメバチが集まってきます。また衰弱・枯死した木の根元の周りにはカエントケという猛毒キノコが生えることがあります。触るだけでも皮膚がただれます。

裏面につづく ➡



吉田 智弘 先生
東京農工大学
農学部・准教授



金本 敦志 先生
NPO birth
自然環境マネジメント部・次長

■ コナラが枯れるのは（吉田先生）

ナラ枯れはカシノナガキクイムシ（以下カシナガ）という米粒くらい小さい虫がコナラなどのブナ科の木に穴を開けることで起こります。カシナガは体に酵母とナラ菌をつけていて、木に開けた穴に酵母とナラ菌を塗りたくります。カシナガはキクイムシという名前ですが、実は木を食べられず酵母を穴で繁殖させて食べるのです。ナラ菌が木を弱らせます。だから大量のカシナガが入ることで木が弱って枯れてしまうのです。

■ 1980年以降ナラ枯れが拡大（吉田先生）

1950年代まではコナラの雑木林は燃料として15-20年スパンで伐採され大径木になりませんでした。カシナガは細い木では繁殖できません。その後、燃料の革命により伐採されることがなくなり育ち続けて大径木化し、しかもコナラばかりの林なのでカシナガが繁殖しやすい環

これからの予定

第3回 11/13 10～12時 みんなで情報交換
第4回 11/23 10～12時 パネルディスカッション
「独歩の森の未来を考える」

西部コミュニティ協議会



武蔵野市境5-6-20
seibu-c@bz04.plala.or.jp
<https://seibu-c.sakura.ne.jp/>

■ 武蔵野地域での状況（金本先生）

武蔵野地域では多くの緑地が被害にあっていますが、国分寺崖線上に被害が集中しています。緑が帯状になっていて、このような緑地を伝えて広がっています。もう一つのラインが玉川上水です。帯状の緑の延長上は気をつけないといけません。

公園	ブナ科の本数	被害本数	枯死本数
都立武蔵野公園	164	54	4
都立野川公園	1018	614	126
都立浅間山公園	1923	449	66

2020年に3都立公園の全木調査を行ったところ上の表のように被害が出ていることが分かりました。この数字は2020年の調査で、今年ももっと被害は拡大しています。

■ 短期～長期の対策（金本先生）

●短期

倒れたら危険なので枯れた木を伐採します。枯れていない被害木はトラップを仕掛けてカシナガを捕獲する対処療法を行います。伐った木の中にはカシナガがたくさん入っていますので、粉碎するなど拡散しないようにします。

●中期

雑木林をゾーニングし将来像とナラ枯れ被害度から、皆伐更新の優先順位を設定し若い林への再生を行っていきます。

●長期

長期放置された木の萌芽率は低く、2年後の萌芽生存率を調べると皆伐地で33.4%、択伐地で11.8%という結果になりました。実生の利用（どんぐりから育てる）も考えていく必要があります。1年後の実生の高さは皆伐地で平均46.7cmで択伐地で7.1cmでした。実生を育てるにも十分に光が当たる皆伐地が有利です。

■ 武蔵野の森の将来像（金本先生）

雑木林の管理放棄により大径木化し、カシナガにとって理想的な生息環境が整ったので爆発的に拡大しました。短期～長期の対策でどんな将来像が描けるのでしょうか。

(1)若いコナラ林を形成：実生や萌芽を育成するためメンテナンスが必要。薪など資源循環を生み出します。

(2)現状のコナラ林（大径木）を維持：短期的なナラ枯れ対策を繰り返します。安全面にも課題。

(3)草地環境を創出：今や雑木林よりも希少な環境。草刈などのメンテナンスが大変。開発計画などで消失しやすいです。

(4)コナラ林とは異なる樹種構成：アカマツ林やハンノキ林はほとんど見られなくなっている貴重な環境。マツ枯れなど別の課題もあります。

(5)放置して遷移に任せる：クヌギ・コナラではない、暗い巨木の森になっていきます。森の形成までに時間が必要。武蔵野らしい生きものには適しません。

■ Q&Aコーナー

Q ナラ菌のために吸水できなくなるのは、死んだ細胞が管に詰まってしまうのか、管はあるけど吸い上げる機能が止まるのでしょうか。

A 管に空気が入ってしまって水を上げられなくなってしまいます。

Q カエンダケの発生条件を教えてください。

A 発生例が多くないので分かりません。ナラ枯れは関連しているかなとは思いますが。

Q 帯状の緑地が被害拡大の要因ということですが、エコロジカルネットワークという面もあります。どう捉えたらいいのでしょうか。

A エコロジカルネットワークは地域の緑・生物には非常に重要です。それがあって、いなくなった生物が帰ってきたり生態系の保全に繋がります。反面、外来種や病原菌の進入路になったりします。だから無くせばいいというわけではありません。人間が対策するポイントと思えばいいです。

A ネットワークを無くすという選択肢はありません。一部の樹種を変えたり若返りをしたりで侵入を防ぐことはできます。

Q 放置という選択肢がありました。全滅や倒木の恐れはありませんか。

A 下が笹だと芽が育たないので木が倒れた後は草原になる可能性があります。木が枯れてから5年経つと急激に折れやすくなるのが山形から報告されています。

質疑応答はまだまだ続きますが、紙面の都合上この辺りで終わります。第3回、第4回で会いましょう。